

「ワーシップソングによる賛美礼拝」に向けて(2021. 6. 17)

「見よ、新しいことをわたしは行う。今や、それは芽生えている。あなたたちはそれを悟らないのか。 わたしは荒れ野に道を敷き、砂漠に大河を流れさせる。」(イザヤ 43:19)

上掲のみ言葉は、横手教会の主題聖句である。神が私たちに語って下さっている約束であり、将来と希望の約束である。私たちはそのように受け止め、私たちの心の中に湧き上がる新しい芽生えを分かち合い、浮かび上がってくる幻を共有し、大胆に教会形成にチャレンジしていこうと決意し、努めてきた。

先日、このみ言葉の持つ意味を改めて教えられた。それは、横手という荒れ野に道を敷き、横手という砂漠に大河を流れさせるという神の強い意志である。神が主導されるということである。真に感謝なことである。同時にそうであればこそ、私たち教会員が荒れ野の石を拾い、雑草を抜き、砂漠に穴を掘ることが求められているのではないか？

ともすると、私は、横手は子供が来ない、若者が来ない、新来者が来ない、あれこれと泣き言を口にし、しかもそんな状態に安住しながら神の約束の実現を待っていたのではないか！そうではなく、そこから立ち上がり、石を拾い、雑草を抜き、穴を掘る、そのからし種のような一歩でもいいから踏み出せ、と神は呼びかけていらっしゃるのではないか。主導されるのは神だから、神がその小さな一歩を大きく用いられる、御心は私たちの小さな一歩を用いてなされる、そんな声が心の奥底に響いてきて嬉しかった。

礼拝の充実を目指そうということで、今年は伝道的視点も組み入れて、年4回の特別プログラムを計画し、その準備に当たっている。特に7月の「ワーシップソングによる賛美礼拝」はチラシ 2500 部が出来上がり、いよいよ配布の段階にきている。特に若い人たちにアピールしたい。そこで、横手高校、城南高校、青陵高校、そして看護衛生学院の玄関前で合計 740 部を配布したいと思っている。からし種の一歩、信仰の一歩、勇気を必要とする一歩であるが、主は間違いなく祝して下さる。主の主導される営みだからである。若者が一人でも足を運んでくれたらハレルヤ！である。

